

A Graphical Tanka Magazine

THEME

# 細雪

飯田和馬

太田宣子

こゆり

紗都子

篠原謙斗

ショージサキ

とびやま

纏亭写楽

ミボツダマ

龍翔

うた  
たら  
ば



0円

TAKE FREE



2011.03 vol.02

THEME

# 細雪

短歌はもっと、自由になれる。

紗都子	・・・	03
こゆり	・・・	05
飯田和馬	・・・	07
龍翔	・・・	09
太田宣子	・・・	11
篠原謙斗	・・・	13
とびやま	・・・	15
ミボツダマ	・・・	17
ショージサキ	・・・	19
纏亭写楽	・・・	21
佳作集	・・・	23
編集後記	・・・	25

これを恋と呼ぶのなら  
いままでのわたしは  
抜け殻でした

どきどきと  
わくわくの  
交わるところで出会った人の  
背中はとても  
とてもきれいで

革命はしずかに起こる  
手をひかれきみと走つ  
た粉雪のなか

紗都子



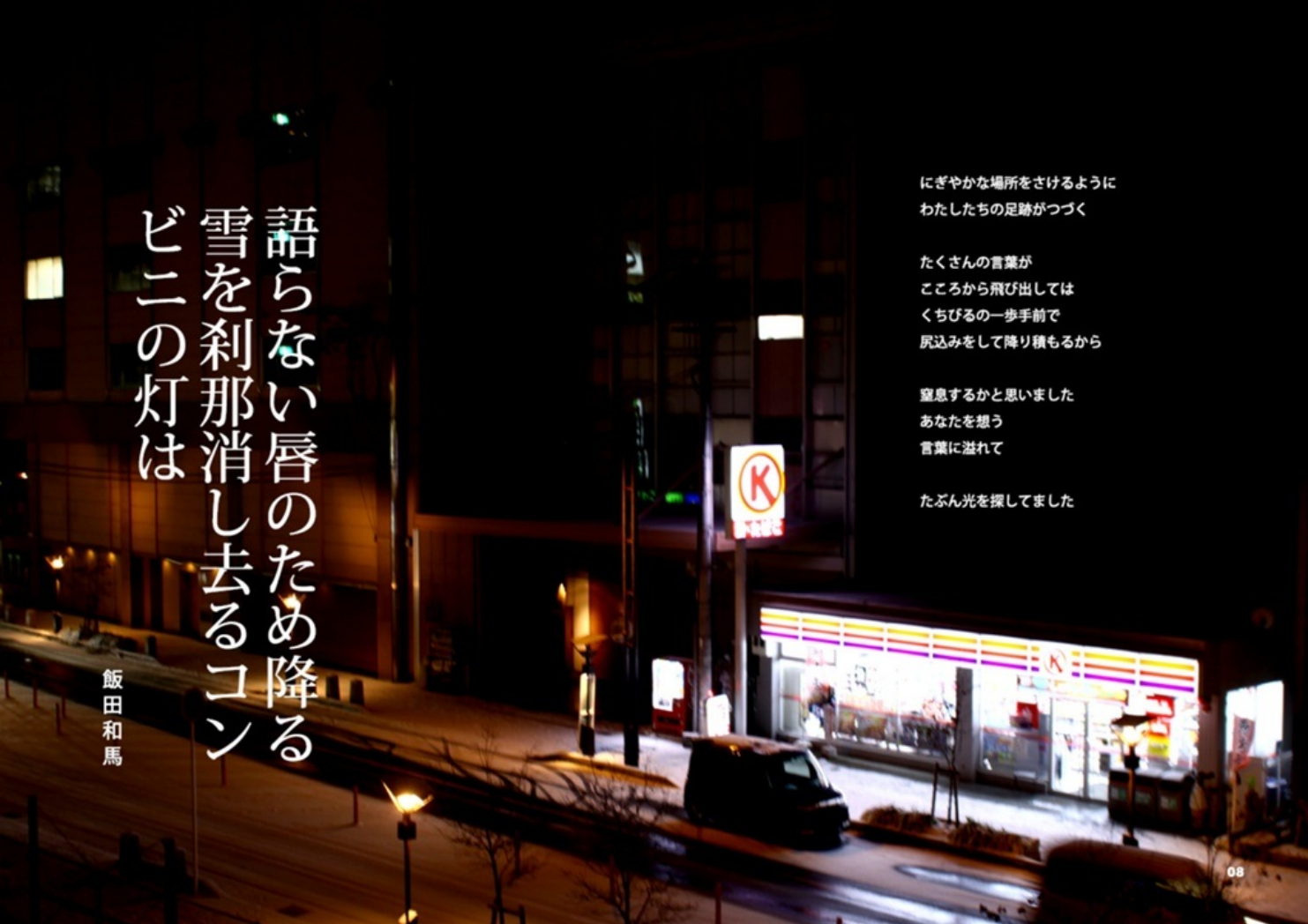
知らなかったことを  
知る瞬間の  
ハッとしたあの優しさが好き

なんでもないわけがないのに  
なんでもないよって言って  
なんでもないふりをした  
わたしはきっと笑っていたね



初恋に気づいてしまう  
取り合ったチヨークで  
ちいさく描くゆきだるま

こゆり



にぎやかな場所をさけるように  
わたしたちの足跡がつづく

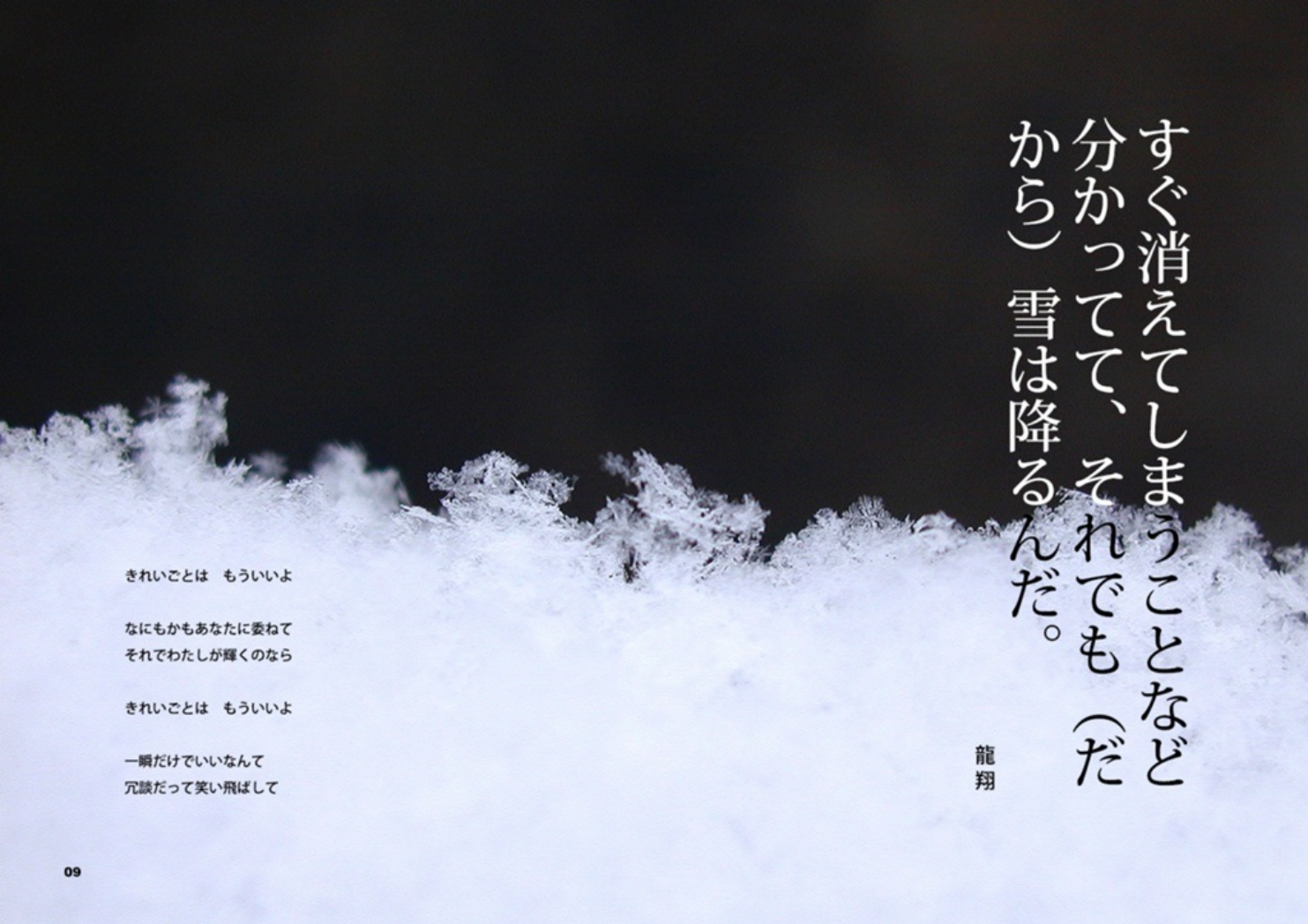
たくさんの言葉が  
ここから飛び出しては  
くちびるの一步手前で  
尻込みをして降り積もるから

窒息するかと思いました  
あなたを想う  
言葉に溢れて

たぶん光を探してました

語らない唇のため降る  
雪を刹那消し去るコン  
ビニの灯は

飯田和馬



すぐ消えてしまうことなど  
分かってて、それでも（だ  
から）雪は降るんだ。

龍翔


きれいごとは もういいよ

なにもかもあなたに委ねて  
それでわたしが輝くのなら

きれいごとは もういいよ

一瞬だけでいいなんて  
冗談だって笑い飛ばして





午前二時の事故を目撃  
した人を求む看板に細  
雪舞う

太田宣子

あなたが  
消えてしまったことに  
気付かないでいるために  
わたしができることはなんだろう

記憶に埋もれて  
過去をわすれて  
逃げ出すこともできないわたしに

あしたにはやんでる雪  
を窓越しにひとりで見  
てる窓際の席

篠原謙斗

世界にわたしひとりなら  
いったい何をしていたらろう

あなたを想って泣くこともない  
それはそれはつまらない日々で

世界にわたしひとりなら  
いったい何をしていたらろう

すべてが許されてしまう恐怖を  
知ってしまった小さな身体で



バスの窓駆け上がる雪  
ねえ、あのさ サビしか  
知らないあれ歌ってよ

とびやま

わたしたちはしあわせでした  
交差点でも 夢の中でも  
足りない部分を補いあって

わたしたちはしあわせでした  
大事なことも 些細なことも  
なにもかも分け合って

きらきら  
きれいな  
未来を無邪気に信じてました



からっぽになった心に  
詰め込むためのなにかを探して  
あなたとえんえん語りあった  
あの夜の結論

変わらないことのいくつかを  
大切に掘り起こして  
それでも満たされないのなら  
もう一度埋めてしまって

春へと運ばれましょう  
わたしとあなたで  
手をつなぎつつ

春を待つ方法としてわ  
たしなら真っ白になる  
覚悟はあるよ

ミボツダマ



雪だるまさん そばに  
いて欲しいけど同じ世  
界じゃ溶けてしまうの

シヨージサキ

いつだって冷静だったあなたの  
怒る顔が見たくって  
ごめんなさい  
ときどき小さな嘘をつきました

さくさくと  
北風の中  
わたしたちが越えようとした  
季節はとても悲しい顔で





さらさらと降りつぐ雪  
におおわれてスノー  
ドームの町のももしび

纏亭写楽

生きるよって  
あなたに言った日のこと  
生きろよって  
あなたが言った日のこと

ひとつひとつが輝いて  
わたしにゆっくり溜まりゆく

おやすみ あなたのいた季節  
おやすみ たくさん祈った季節  
おやすみ わたしの好きな人たち  
おやすみ あなたが愛した人たち

「綺麗」って君が仰ぎ見る雪  
にさえ嫉妬していた 初恋だ  
から（佐倉さき）

大声で「寒い寒い」とはしゃ  
いでる チラチラ落ちる雪の  
せいにして（檀可南子）

降りやんだ雪を小さな肩にの  
せあなたはまたねと始発に向  
かう（継亭写楽）

落ちて来る雪を音色に表すと  
カリンバカリンすこしうるさ  
い（空音）

「初雪はおしゃべり好きが多  
いから今夜のノイズはきつと  
それでね」（飯田彩乃）

はぐくんだ愛も小さなわがま  
まで粉々になる屍に雪（くら  
むぼん）

真夜中に千切れ散る雪、頬に  
うけ「もしもし」「もしもし？」  
それだけのため（ヒラタアリ）

「細雪」の図書カードにはあ  
いつとの相合傘を書いてたま  
まだ（天銅女聖）

手のひらで溶けていく雪も  
うわたし冷たい人じゃなく  
なつたよね（達）

粉砂糖こぼれて夜のテーブル  
にふたつの指が冬をおしえる  
（むしたけ）

どこだかに置き忘れてきたサ  
ヨナラの粒がいくつも落ちて  
くる、雪（goxi）

熊たちのロマンあふれる冬眠  
を祈るしかない朝礼のとき  
（とびやま）

もう君を暖めないと決めたん  
だ雪よひらひら手のひらに降  
れ（野比益多）

「ゆき」と言い終わった後の  
口許の微笑みがあまりに優し  
くて（yukutuki\_ski）

## 佳作集

## 編集後記

まず最初に、謝らなければなりません。今回のテーマ「細雪」は、お題の言葉を少しばかり限定しすぎてしまいました。細雪の「細」の字のイメージで皆さんを縛ってしまったためか、全体的に切ないお歌が多かったような気がします。それに従って、写真もいつもよりカラフルではなくなってしまいました。サイトにて公開しているブログパーツ短歌にも共通して言えることですが、お題の選び方ひとつにしてもセンスが必要であることをあらためて実感しております。やや寂しげな仕上がりのうたらば vol.02【細雪】。でも、それもまた冬ならではの光景。冬ならではの感情。そう思うと受けましたら幸いです。

そんなうたらばも気が付けば3冊目。田中ましろ個人の趣味に温かい目で付き合ってくださいる皆様と、無償で配布場所を提供してくださっている店舗のみなさまにあらためて感謝しつつ、次号【はつなつ】の制作も頑張りたいと思います。

今後ともよろしくお願いいたします。

企画・構成・写真・誌面デザイン  
田中ましろ

幸せのかたち似てる  
冬空に落ちた金平糖の  
ひとつづつ

田中ましろ





## Project Uta-Lover

<http://www.utalover.com/>

短歌の募集は随時行っています。  
お気軽に上記 URL よりご投稿ください。  
投稿短歌より写真作品を制作し、  
次号に掲載させていただきます。

## うたらばvol.02【細雪】

<http://p.booklog.jp/book/38869>

企画・詩・紙面デザイン：田中ましろ@うたらば  
プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/utalover/profile>

※本誌は電子書籍用に最適化された冊子ではありません。  
正式PDF版は下記URLでご確認ください。  
<http://www.utalover.com/pdf/utalover02.pdf>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/38869>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/38869>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.